

「学びナビ」の効果と活用

主体的な学びで読みを深める「学びナビ」

説明的文章「学びナビ」の構成

学習の手引き「みちしるべ」

「読むこと」の学習のステップ

「ここが大事」と「みちしるべ」の連携

「読み方」を理解し、身につけることで、自分の表現力を高めることが可能に

言葉がつなぐ世界遺産

「目標」で学習の見通しをもち、「振り返り」で自覚的に確かめる

脚注で取り上げた重要語句のまとめ

▲1年P 200『言葉がつなぐ世界遺産』

「ナビ」を活用した学び

①考えの形成・過程の重視
目的に応じて複数の情報（根拠）を関連づけて、考えを形成します。

②言語活動の充実（指導と評価の一体化）
大事なポイント（観点）をおさえて生徒の言語活動を充実させます。

③学びの広がりや深まりの実感（振り返り・見通し）
考えの広がりや深まりなどの変容・深化を実感し、自らの学びを見通し、調整していきます。

文学入門教材『桜蝶』

文学入門『桜蝶』設定の意図

同じできごと、設定で描かれたA・B二つの作品を読み比べることで、文学作品の特徴を体験的に学ぶ

物語や小説の特徴をビジュアルに解説

▲1年P 18『桜蝶』

文学入門『桜蝶』設定の意図

中学校での文学入門として『桜蝶』は創作されました。文学的文章は、言葉を手がかりにしながら文脈を読んでいくことが求められます。

「何が書かれているか（あらすじ）」にとどまらず、「どのように書かれているか（描写や構成を理解するために、同じできごとが描かれたA・B二つの作品を用意しました。本格的な小説教材に向き合う準備として、「場面や情景の描写」「人物の行動や心情」に焦点をあて、作品の「読み方」をナビゲーションしていくという、教科書初の試みです。

「学びナビ」 説明的文章の授業への活用

今なぜ「読み方」が先か

——「読み方」を先行して学ぶ意義——

1年P 200

『言葉がつなぐ世界遺産』（橋本典明）



まず、「学びナビ」で学習のかまえを作ろう。

第1時

「学びナビ」おページから「読み方」を学び、それを使って読んでみよう

学びナビ

1 「学びナビ」の「読みの扉を開く」の内容を授業者が説明する（ここではまだ教科書では確認させない）。

・説明的文章の典型的構造である「問い→事実→答え」の構造、題名の役割を理解する。

2 題名を検討する（次の(1)～(4)まで発問していく。(4)まで題名全体を示さない）。

(1)「つなぐ」とはどのような意味か。

〈解答例〉

①「離れているものを」結びつける。「手をつなぐ」

②「結びついて」るものを「絶えないうつに」する。「信用をつなぐ」

(2)「世界遺産をつなぐ」はどのような解釈できるか。

〈解答例〉

①より「各地の世界遺産を結びつける」

「世界遺産を現代に結びつける」

②より「各地の世界遺産の結びつきをたえないようにする」

「世界遺産と現代との結びつきをたえないようにする」

(3)「」が世界遺産をつなぐ」の「」に入る言葉は何か。

〈解答例〉

「私たち」「人々の思い」「ユネスコ」

(4)題名「言葉がつなぐ世界遺産」を提示し、この題名からわかったこと・疑問に思っていることを明確にして学習の見通しをもつ。

「わかったこと」 世界遺産をつなぐのは言葉だということの説明した文章である。

「疑問に思っていること」 言葉が世界遺産をつなぐとは、どのようなことか。（＝Q1）

「学びナビ」で、学習の見通しをもとう。

学びナビ

3 「学びナビ」読みの扉を開く」を黙読し、読み方を確認する。

学びナビ

4 「学びナビ」「じっくり読み深めよう」を音読し、学習活動を理解する。

「学びナビ」を授業のさまざまな段階で活用することによって、常に学習の重点が意識づけられるね。



5 教材本文の範読を聞きながら、次の活動を行う。

(1)本文で提示された問い（＝Q2）と端的に示された二つの答えを探す。

〈解答例〉

Q2……専門家たちが驚いたその方法とは、どんなものだろうか。答え……「修復の蓄積」「世代を超えた技術の伝承」

(2)本文に三種類の事実があげられていたことを確認する。

今回学んだ文章は理解できたけれど、次に学ぶ文章はまた一から模索して……。文章内容だけでなく、その文章から学べる読み方まで身につけたとしても、その読み方が次の教材ではダイレクトに生かされないことがあります。これが、学習者による、学びを積み重ねているという手ごたえや学ぶ楽しみの獲得を難しくしています。

こうした状況を改善するのが、説明的文章の読み方をまず学び、それを生かして実際の教材を読んでいく授業展開です。次期学習指導要領では、「何ができるようにするか」、つまり、「どんな力が身につくか」を求めています。

「学びナビ」は、読み方から学び始めることにより、汎用的な読む力を形成していく手立てとなります。

第2時

読み方をマスターしよう
——首尾の呼応を意識しながら問題解決的に本文を読もう

学びナビ

1 本文を音読したあと、「学びナビ」の「本文を読んで、キーワードを抜き出してみよう」に取り組む。

(1)【問い】にあたるQ2は単なる抜き出しではなく、本文の言葉を使ってまとめ直すことよりよいことを指示する。

〈解答例〉「イ」モスの専門家たちが驚いた、建造物を修復し保存するための方法とは、どんなものだろうか。

(2)【問い→事実と答え】を埋めながら、筆者が取材して得た事実と問いの答えを整理し、【答え→意見】を埋めてQ2の解決を捉える。

(3)【題名→問い】に示されたQ1の解決をまとめる。

〈解答例〉世界遺産を受け渡していくための技法や技術は言葉によって伝えられてきたということ。



「学びナビ」は、内容を捉える手がかりになるね。

第3時

文章の内容を読み深めよう

学びナビ

1 「学びナビ」（左ページ）を参照し、本文の内容を確認する。

読みを深めたいときに、「学びナビ」に戻るのもいいね。



2 本文を読み返しながら、「みちしるべ」『内容を読み深めよう』に取り組む。

・【1】によって事実と意見の関係について、【2】によって最重要キーワードである「言葉」の役割についてまとめる。

3 筆者の考え方・ものの見方について感じたことをまとめる。

第4時

自分の考えを伝え合おう

1 グループで前時に自分のまとめたことを発表し合う。

2 『参考 地域から世界へ』の範読を聞きながら、三人のエピソードに共通する「危機」と「危機克服の視点」をまとめる。

3 グループで自分のまとめたことを発表し合う。

4 「言葉がつなぐ世界遺産」という題名にめられた筆者の思いに対する自分の考え、または、伝統的な技術の継承と発展についての自分の考えのいずれかを文章にまとめる。